

高潔な母と気高い息子

神の愛の化身である皆さん！

もっぱら他者のために、木は果実を与え、川は水を運び、牛は乳を出します。同様に、人間の体は他人を助けることに従事するために与えられています。ところが、人はこの真実をわからずに、体を利己的な目的のために使っています。今の人間は、木や川や牛に劣る態度で振る舞っています。

人は自分に体が授けられている目的を忘れつつあります。夜明けから日暮れまで、人はずっと利己的なことを追い求めています。人は私心のないこととは何を意味するかをよく理解していません。人は現象界を唯一の実体であると思っています。

人は非真なるものを真なるものと取り違え
真なるものを非真なるものと取り違えている
しかし、真なるものはただ一つ
そして、それより他に、宇宙には何も無い

目に見えるこの宇宙は三つのグナ（サットワ、ラジャス、タマス）[浄性、激性、鈍性]でできています。宇宙がストリー（女人）と呼ばれる理由はこのためです。ストリーという言葉は、サ」とタ」とラ」という三つの構成要素を有しています。サ」はサットウィックな性質（浄性）の象徴です。これには辛抱強さ、慈悲、愛といった性質が含まれます。タ」はタモーグナ（鈍性）の象徴であり、慎ましき、恥じらい、恐れ、忍耐といった性質を含みます。

ラ」はラジョグナ（激性）の象徴であり、勇気、犠牲心、冒険心といった性質を表しています。この世に生まれたすべての者は、女性の性質だけを有しています。男性と女性は、ただ身体的な姿形をもとに区別されているにすぎません。ストリーという言葉の中にある三つの性質は、男女双方に見出せるものです。

母の役割

ストリーという言葉を手軽に扱ってはなりません。「バガヴァットギーター」は、女性原理として七つの属性を挙げています。それは、名声、富、話す能力、英知、知性、不屈の精神、決断力です。母の原理は、これら七つの潜在力の具現であり、きわめて神聖なものです。どこを見ても、あなたは自然の中に女性原理の現れを見てください。海外に行くと、まず尋ねられるのは、「あなたの母語は何ですか？」という質問です。誰も「あなたの父語は何ですか？」とは尋ねません。これは、母親の役割にどれほどの重要性が置かれているかを示しています。母親は胎内で子を育て、あらゆる苦痛を経て子を守ります。この世に母の愛に勝る愛はありません。それゆえ、古代の人々は、母親に最高の名誉を授け、「マートゥルデーヴォーバヴァ」（母を神として尊べ）、「ピトゥルデーヴォーバヴァ」（父を神として尊べ）と宣言したのです。なぜなら、誰にとっても最初の師は母親だからです。子どもが最初の話し言葉、よちよち歩きの最初の一步、その他の多くの振る舞いにおける最初の学びを習うのは母親からです。それゆえ、母親はプラクリティ（自然）の映しとして際立っているのです。

インドの歴史における高潔な女性たち

女性原理の偉大さが認められているという証拠があるにもかかわらず、女性たちはアバラ（より弱い器）と表現されてきました。女性にこの名称が付けられたのは、ヤグニヤ（供犠）や他の儀式を執り行う際、女性は男性と共に儀式への参加を許されてはいるものの、女性に授けられている地位は二次的なものであるためです。女性だけで供犠や儀式を執り行うことはできませんでした。慈善行為、宗教的行為でさえ、女性がそれを行うことできたのは、夫と共に行う場合のみでした。

アバラという言葉がこうした特別な場合にのみ使われるとはいえ、女性は力や能力に関してはまったく弱くはありません。世界には、女性が力を示した数えきれないほどの例があります。男性には三つの潜在能力があると考えられているのに対して、「バガヴァットギーター」によれば、女性には七つの潜在能力があるとされています。死の神に死んだ夫を蘇（よみがえ）らせさせたサーヴィトリーを、か弱き者などと呼べますか？ ブラフマー、ヴィシュヌ、シヴァという三大神を三人の赤ん坊に変えてあやしたアナスーヤを、アバラ（か弱い女性）などと呼べますか？ 翌朝夫は死ぬと運命付けられていたために太陽が昇るのを止めたスーマティーは、偉大な女性でした。スーマティーはアバラと呼ばれたのでしょうか？ いいえ、呼ばれませんでした。夫たちが通らなければならなかった十四年間の厳しい試練に強い精神力で耐えたトラウパデーは、か弱い女性でしたか？ 人生のあらゆる苦難を森でラーマと共にし、ついには勝利に到達したシーターを、か弱き者などと呼べますか？

歴史の記録には、そうした高潔な女性はいくらでもいます。女性は、肉体的にはか弱く見えるかもしれませんが、実際は力に満ちているのです。三グナの具現として、女性には特別な力が備わっています。霊性の領域においてさえ、女性は限りない能力を発揮します。

母への感謝

母親としての役割の中にこそ、女性の力は最も強く現れます。生まれてくる子どもは皆、母親のおかげで生を受けることができます。それゆえ、誰もが自分の母親に深く感謝すべきです。

母親は万物の母の象徴であり、父親は主なる神の象徴です。神はすべてであることを示すよく知られたサンスクリット語の祈りがあります。

ああ、神々の中の神よ！
あなたは私の母であり、私の父です
あなたは私の親族であり、私の友です
あなたは私の英知であり、私の宝です
あなたは私のすべてです

母親は、話し言葉を教える最初の教師です。子どもが一番最初に教わる言葉は、アンマ（お母さん）、アッパ（お父さん）です。アルファベットを教え始めるのはそれからです。最初に教えるのは、「オーム ナマ シヴァーヤ」[シヴァ神に帰依します]、あるいは、「オーム ナモー ナーラーヤナーヤ」[ナーラーヤナ神に帰依します]という言葉です。言葉を教えることは、シヴァやナーラーヤナといった神の御名を教えることから始まります。

古代、母親は子どもの最初の教師という地位を占めていました。残念なことに、今の世では、親は子どもに何を教えているのでしょうか？ [ABCD]を教えています。それだけです。それから、「バー バー ブラック シープ！」[メー黒い羊さん。マザーグースの歌の歌詞]といった、意味のないことを教えています。母親たちは、自分は子どもに何かすばらしいことを教えているという気でいますが、それは間違いです。アルファベットを教えるときは、神の御名で始めるべきです。

古代の母たちは真理と正義を教えた

これが、古代バーラタの母たちが子どもに教えたやり方です。古代の教えでは、サッティヤム ヴァダ、ダルマム チャラ（真実を話し、正義を守る）ということが熱心に人々に説かれました。子どもに嘘を話すように教える母親は一人もいませんでした。子どもに正しくない道を歩むよう求める母親は一人もいませんでした。母親たちの唯一の願いは、子どもが称賛に値するような価値ある生き方を送って、幸せを確かなものとするのを見ることでした。それゆえ、親に対する態度として、子は母親を最も大切に扱うべきなのです。

今、私たちはそうした理想的な母親を奨励する必要があります。現代は乱れた傾向にありますから、これは、なおのこと必要です。裕福な家庭では子どもが産まれたときから子どもを乳母や育児婦に預ける傾向にあります。子は母の愛を受け取っていません。子は母親とは何かを知りません。

古代、マダラサー王妃は、子どもが幼いころからヴァイラーギャ（無執着）の偉大さを教えていました。マダラサーは子どもを寝かしつけるときに次のような子守唄を歌っていました。

オームカーラという揺りかごの
大格言「タットワマスイ」汝はそれなりという床に寝かせ
悟りという調べにのせて揺らしましょう
愛しい我が子よ、神々があなたをあやして眠らせてくれますように

揺りかごを吊るす鎖は四つのヴェーダ
あなたの心が九つの信愛の姿で満たされますように

古代の母親たちが我が子を信愛と無執着で満たしていたために、パーラタは、犠牲の国、英知の国、ヨーガの国、安らぎの国として、傑出していたのです。今は、母親たちがそうした精神で子育てをしなため、この神聖な国は犠牲の国ではなくなり、享楽を愛する国になってしまいました。享楽は病を生み出すものへと変わります。古代の犠牲は、この国をヨーガブーミ（ヨーガの国）にしてくれました。私たちの目的はヨーギ（神との合一を果たした者）になることであり、ローギ（病の犠牲者）になることではありません。

悪い息子はいるだろうが、悪い母親はまれにしかいない

神の愛の化身である皆さん！

皆さんは、自分の母親に感謝を示すためなら極限の犠牲さえいとわない、という心構えができていなければなりません。ラーマやクリシュナといったアヴァター（神の化身）でさえ、母親のおかげで降臨することができました。誰も皆、善良な子どもを産んでくれる神聖な母親のために祈るべきです。世界には悪い息子はいるかもしれませんが、悪い母親はまれにしかいません。今の母親の多くは、我が子の悪い振る舞いを嘆いています。自分の母親を悩ませた息子には、何もいいことはありません。テルグ語のことわざに、「母親が涙をこぼす家には、繁栄はあり得ない」というものがあります。今、私たちは母親を喜ばせる息子を必要としています。

母親は、母の役割として、子どもにいつも真実を話すよう教えるべきです。「どこに行っていたの？」と母親に尋ねられたら、子どもは言葉を濁してはいけません。真実を話し、もし何か悪いことをしていたら正直に言わなければなりません。今日では、親に真実を語る子どもはほとんどいません。そんな子どもたちのための教育が何の役に立つのでしょうか？

今日の少年少女がこの国の将来を担うのです。ですから、親は子どもが理想的な国民になれるよう、正しい道に沿って育てていく義務があります。

様々な地域の女性たちが、「女性の日」と呼ばれるお祝いをしています。その日は講演やバジャンをして祝うだけではいけません。貧しい人、見捨てられている人を助ける努力をするようにしなさい。生活の糧のない、どうすることもできない女性たちに、収入を得ることのできる裁縫等の職業技術を教えるようにしなさい。スラムに住む人々が住んでいる場所を清潔に保てるよう手助けするようしなさい。子どもがきれいな空気の中で育つことができるよう、周囲の環境を清掃するようしなさい。きちんと家事をすることも教えるようしなさい。

病気は主に非衛生的な環境によって引き起こされます。その上、空気、水、心、あらゆるものが汚染されています。こうした汚染は新しい病気を引き起こしています。

ヴィディヤーサガールの手本

過去において、母親は子どもを形作る上で大役を担っていました。たとえば、イーシュワル・チャンドラ・ヴィ

ディヤーサガールの手本があります。ヴィディヤーサガールはコルカタに生まれました。ヴィディヤーサガールは、立派な学者になることで自分の名前(知識の海の意)を正当なものとした。家は大変貧しく、母親は息子を育てるために食べるものも食べませんでした。ヴィディヤーサガールは最も不都合な環境の中で勉学に励んで学業を修め、月給50ルピーの仕事を見つけました。やがて、賢明に働くことによって立派な地位に昇格しました。

ある日、ヴィディヤーサガールは母親のもとに行って言いました。

母上、私は母上の祝福とご指導のおかげで立派な地位に就きました。今なら母上の願いを叶えることができます」

母親は言いました。

息子よ、まだです。私には三つの願いがありますが、それはそのうち話します」

しばらくして、さらに高い地位に就いたイーシュワル・チャンドラは、母親に再び懇願しました。母親は言いました。

私たちの村は貧しく、学校がありません。子どもたちが教育を身に付けるために外に行かなくていいように、どうかここに学校を建ててください。その学校が私の装飾品となるでしょう」

息子は母の願いを叶えました。

後に、母親は二番目の望みを打ち明けました。母親は、村人たちのために、村に小さな病院を作ってほしいと、イーシュワル・チャンドラに願いました。そして、その病院は自分が息子からもらいたい二つ目の装飾品となるだろうと言いました。母親の望みどおり、ヴィディヤーサガールは病院を建てました。

それから何年か経ち、ヴィディヤーサガールはさらに高い地位に就きましたが、これまでどおり謙虚で、慢心はまったくありませんでした。ヴィディヤーサガールは母親に三番目の望みは何かと尋ねました。母親は、村を通っていく旅人たちが休めるような、小さな休憩所(食事と宿が無料で提供される施設)を作ってほしいと言いました。ヴィディヤーサガールは、村に小さなコミュニティー・ホールを建てました。

今の教育を受けた人たちは、さほどのものでもない自分の教養に得意になっています。ヴィディヤーサガールに謙遜を实践させたのは、母親の教えでした。

苦行も、儀式も、巡礼も
人生といふ輪廻の海を渡るには、役に立たない
人にこの海を渡らせてくれるのは
善人への奉仕のみ

(サンスクリット語の詩)

奉仕は最も重要です。奉仕は謙虚さを促す助けとなり、さらには、人類の唯一性を促す助けにもなります。見せびらかしが入り込む余地を与えないようにしなさい。真の信愛には自己顕示欲はありません。

子どもたちは、母の愛は無上のものであり、神の愛にも匹敵するということを理解すべきです。母を愛し、尊敬しなさい。これこそが、母の日の趣旨です。親は神の生きた象徴です。子は親を幸せにしなければなりません。

Sathya Sai Speaks Vol.29 C.13

翻訳 : サティヤ サイ出版協会